

SGH・課題研究発表会

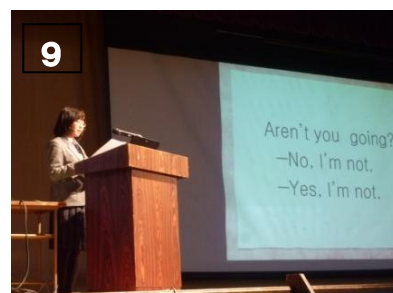
日時 平成27年2月17日(火) 14:15~16:05

会場 本校体育館

第1学年が、運営指導委員の皆様の前で、SGH・課題研究の発表会を実施しました！

各クラスの発表会で選出された代表者・グループによる発表

研究分野	発表テーマ
1 礼文島研修	礼文島における国際共同調査報告
2 シンガポール・マレーシア研修	シンガポール・マレーシア研修報告
3 先端技術研究	石油に代わる新世代エネルギー
4 学術研究	絵本の翻訳
5 地域社会研究	知られていない身近な病
6 企業研究	マクドナルドの研究
7 学術研究	食とグローバル化
8 先端技術研究	人工知能
9 学術研究	私の好きな日本語



SGH アドバイザー(運営指導委員)・教育委員会の皆様の感想・意見

出席者 SGH アドバイザー:名城大学教授・名古屋大学名誉教授 福田 敏男 氏
SGH アドバイザー:富士通総研シニアコンサルタント 若生 幸也 氏
岐阜県教育委員会:学校支援課長他2名

発表会の前に、生徒の言語活動(アウトプット)を重視したアクティブ・ラーニング(ペア学習やグループ学習を取り入れた主体的・協働的・能動的な学習)やタブレット端末などのICTを活用した授業を参観していただき、発表会の後に、今年度の取組をご報告し、ご意見をいただきました。

- ・生徒が積極的でプレゼンの能力も高い。発表や研究報告の内容が立派である。
- ・グローバル社会であるからこそローカルを大切にしてもらいたい。自分の街、自分の国、自分の趣味を相手に語る力が必要であるが、プレゼンや寸劇を見ている限り、関高生は大丈夫であると感じた。
- ・国内でのグローバルな活動も可能であるし大切である。例えば名古屋大学の工学部にもマレーシアからの留学生がいる。日本国内でできることも多い。
- ・早急に結果を求めないこと。結果のみにとらわれず、プロセスを大切にしてほしい。
- ・小手先の知識や技術ではなく人格の育成を大切にしてほしい。人柄は友人との相互作用や、インタラクティブな授業で育つ。関高生は活発でマナーもよく、モデル校になり得る。頑張してほしい。
- ・インタラクティブな授業は生徒の興味・関心を引き出すことにつながる。また、大学や職業などの次のステップにつながる。興味・関心を喚起し自分の意志で学ぶようになれば、あとはどンドンとやるようになる。
- ・輩出したい人材像や人材育成に向けたプログラムを明確化する必要がある。PDCA(plan, do, check, action)のサイクルで、事業の進捗状況を確認することが大切である。
- ・アウトプット(結果)ではなく、アウトカム(成果)が大切である。
- ・高校までの学習と異なり、大学や社会で求められる解答はひとつではない。解答を導く過程の論理性が問われていることを、高校教育のどこかの時点で教える必要がある。
- ・高校教育の中で、土台となる学力を養成すること(従来型の教育)は大切である。しかしその一方で、型から離れていく作業の入口部分を学ばせることが必要で、それが課題研究やディスカッションであったりする。
- ・現在の関高のSGH事業の特徴は、課題研究と授業改善のふたつにある。その相互作用の充実に期待したい。例えば本日の英語の授業で取り上げていたカテゴリライズという考え方は、様々な教科で必要であるし、課題研究を実施していく上でも必要である。そのような、汎用性のある方法論を様々な授業で扱えば、課題研究を進める上でも大きな力となる。逆に課題研究で身に付けた力が授業や一般教科の学習にも役立っていくはずである。SGH事業を通じて、そうした相互作用のあり方を探してほしい。
- ・関高では、次回指導要領の中核となるアクティブ・ラーニングがすでに実施されていて先進的である。また、SGH 事業の中で、外部の方々(研究者、企業人、学生等)と積極的に交流し、多様な力を身に付けている点が評価できる。生徒の発表もユーモアやウィットに富んでいる。
- ・SGH は海外研修や英語力向上研修ではない。課題研究こそが根幹であり、仮説を立て検証するという研究の手法をしっかりと学んでほしい。論証の過程で試行錯誤や失敗があつたとしても、研究活動それ自体に意義がある。
- ・文科省は当然、SGH事業を入試改革(2020 年)と連動させている。多様な力の評価、領域横断型・課題解決型入試問題の導入等、入試改革の趣旨を踏まえつつ、SGHを進めていってほしい。